

中等・高等教育段階の聴覚障害者を対象とする
Web助詞問題の作成

障害者高等教育研究支援センター・准教授

脇中 起余子

キーワード

助詞、授受構文、日本語指導、聴覚障害児、手話、認知特性

研究概要

従来から聴覚障害児の多くが助詞や接続詞を適切に扱えないことが指摘されている。

手話に対する理解が広がったが、「車庫で棚を作る」と「車庫に棚を作る」、「1時間本を読んだ」と「1時間で本を読んだ」など、手話表現が同じになる例が多い。そこで、筆者は、『よく似た日本語とその手話表現』や『助詞の使い分けとその手話表現』（いずれも北大路書房）などの本を執筆する中で、微妙な日本語の手話表現の仕方を検討したが、手話の使用が助詞の理解に直結しないことも感じてきた。

2017年度に、聾学校中学部や高等部の生徒、筑波技術大学の聴覚障害学生を対象として、助詞（格助詞・副助詞・接続助詞）と接続詞に関する888問を作成し、Webで取り組めるようにした。その後、その答えになる理由の説明（文・図）を聾学校教員の協力を得て作成し、上述したWeb助詞問題に添加して生徒や学生の自学自習教材とした。また、文章より手話のほうが理解が早い聴覚障害児のために、手話動画による説明を添加した。さらに、聴覚障害児が特に苦手とする「ウチソト」と関連する授受構文について、聴覚障害者に多い認知特性（視覚優位型・同時処理型）に配慮した教材を作成し、筑波技術大学の聴覚障害学生への授業で用いたり聾者に意見を求めたりして改善に努めた。そして、各指導者は、各学習者の正答率だけでなく、各選択肢を選んだ比率を把握できると、生徒や学生の誤答傾向がつかめ、助詞や接続詞の指導に役立てることができると、各指導者がCSVを分析しなくても、自校の生徒の選択状況が一覧できるようにした。

応用例・用途

本研究で開発したWeb助詞問題は、解説もあるため、各学習者の自学自習教材となり、電車の待ち時間を利用した学習も可能である。

「はさみ（で）紙（を）切る」のような基本的な問題を集めたドリルはあっても、中等・高等教育段階の生徒を対象とした問題集は少ない。また、全国の聾学校は生徒人数が少なくなっているが、このWeb助詞問題は、ランキングも掲載されるため、全国の聾学校生徒を競い合わせる可能性をもっている。また、大学の留学生の日本語支援の教材となる可能性ももっている。

